

あとがき

第十五回日蓮宗教化学研究発表大会は、平成二十七年二月五日、日蓮宗宗務院で開催されました。本冊子は、当日の発表内容を収録したものです。

平成二十六年は、現代宗教研研究所が昭和三十九年に設立されてより五十年に当たります。

現宗研設立への気運は、まず昭和三十六年十月に行われた第十臨時宗会において、加賀美宗務総長へ宗立の研究so設置の要望がなされます。ついで、翌三十七年三月に行われた第十一宗会において、日蓮宗布教教学研究so設置に関する建議案が採択され、準備委員会が発足したようです。さらに、昭和三十八年三月の第十三宗会では、金子宗務総長挨拶への質問に対して、翌三十九年の設立に向けて準備委員会の一層の充実を計る旨の答弁が、当時の教務部長の茂田井先生によってなされています。

この布教教学研究so構想によって出発した現宗研は、昭和三十八年三月当時は、「現代宗教研機関」との名称変化をしておりました。また、当初は布教研修所をも内包する組織として検討されていたようです。その頃の名残でしょうか、平成十四年の機構改革以前は、中央・教区教化研究会議の予算は教務部所管となっておりました。

設立準備委員会は、現宗研の組織や機構を検討していたであろう事は想像に難くないですが、これに併せて具体的な調査も行っていたようです。これは設立直前の昭和三十九年二月に発行された「庶民における日蓮像・日蓮宗寺院実態調査・日蓮宗社会事業実態調査」を以て、その活動の足跡を確認することが出来ます。

以上のような経緯（かなり雑駁ですが）を経て、昭和三十九年四月に設立しました現代宗教研研究所も、五十周年を迎えました。これも偏に皆さまのご理解とご協力の賜と感謝申し上げます。

応募による発表は、これまで通り、教師の皆さんより多角的な視野や活動に基づいたご発表を頂きました。ご一読下さればと存じます。また、右に申し上げましたように本年度が現宗研設立五十周年に当たることから、例年の「特別発表」枠を、それぞれの立場でご活躍されている、現代の本宗を代表するとも言えるような五名のパネリストをお招きしての、「現代と宗教」を考える」と題する特別シンポジウムとして企画しました。日蓮宗の現在そして未来をめぐるスリリングな議論を是非ご熟読ください。